



## グリーンアジアにおける活動

福岡工業大学 社会環境学部・准教授  
渡辺 智明

私は2013年3月から5年間にわたってグリーンアジア(GA)における教育活動に従事してきました。GAでの活動は、私にとって、これまでにない新鮮な体験ばかりであり、教育に携わるものとして、大きく視野を広げてくれた5年間であったと思います。

GAにおける私の主な担当は、人文社会科学系科目の講義(「社会システム学II」)や非常勤講師のアレンジメント、入試エッセイ問題の作成、そして学生に技術の社会的文脈を踏まえた論文執筆を指導する国際演習Aが中心でした。

国際演習Aでは、1期生の日本人(5名)および2期生の日本人(4名)および留学生(8名)が、査読論文を執筆することができました。社会科学の論文を書くための方法論を知らない学生たちは、当初戸惑っていましたが、事例選択や先行研究の整理の方法を習得する中で、論旨も明確となり、最終的にはいずれも素晴らしい論文を提出することができました。学生たちが、苦心しながら、しかし貪欲に、学際的な論文をゼロから執筆していく作業を見守ることができたことは、幸甚でした。

5年間の活動を振り返って、私が最も大きな財産だと思うのは、留学生を含めた多様な生徒に対して、いかに専門研究にとどまらない視野の広い人材を育てる教育を行うかということについて常に考え、カリキュラムを作る過程に携わってきたことです。GAが掲げる目的とその教育プログラムは、従来のカリキュラムや教育方法に則ったルーティン思考の枠を超えるものでした。

今日の大学教育・大学院教育も常に新しいコンセプトや科目、教育方法を模索することが求められています。単に、経験を積んだということだけでなく、このような文理融合の教育プログラムに関わったことは、広く大学関係者からも高く評価される点だと思います。

またGAでは、2013年度に行ったマレーシア実習の産業施設訪問の調整、2015年度の韓国海外実習のアレンジ

メントについて、関わる機会がありました。海外演習をアレンジ自体が大変な作業なのですが、特に2015年度の場合、当初予定していた海外演習が、訪問地に関する諸般の事情で中止となったため、2か月程度の準備期間しかなく、訪問する大学やワークショップなど、本当に慌

ただしい中で、計画し、相手先と折衝していたことを思い出します。

現在、国立・私立を問わず、多くの大学では、地域連携や国際戦略といったことが、これまで以上に大きな意味をもつようになって

います。私が現在勤務する大学でも、大学の枠を超えて、行政や企業、NPOといった社会セクターとの連携、さらには、海外の大学や研究機関や企業などの協働などに知見があり、それらの活動に従事した経験のある人材を求めています。GAの活動は、このような現在大学が求めている課題に応える能力を磨くという意味で、何よりも素晴らしい経験であったと言えます。

最後になりますが、私に素晴らしい教育活動に従事する機会を与えて下さった、プログラム責任者の原田明先生、コーディネーターの谷本潤先生、林潤一郎先生をはじめとする諸先生に深甚の感謝を申し上げます。また、プログラムの立ち上げからともに、「学生によりよい教育を」と、ともに考え努力してきた、GAの同僚の先生、職員の方々にも、この場を借りてお礼申し上げます。有難うございました。

